



日本歯科大学（新潟病院
医科病院）

Vol. 1
2008.10.1

アイヴィ通信

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～



地域の皆様に信頼される病院を目指して

新潟病院 病院長 関本 恒夫

日本歯科大学新潟病院は地方都市の病院として、病氣、健康にかかわらず全生涯に渡り、地域住民の生活を健康面から支援する病院を目指しています。そのために、本院では治療後の安定性を維持するための「確かな技術」とともに「思いやりの心」を重視しています。

全職員が患者様の悩みや痛みを患者様の立場に立って考え、対応することを常に目標としています。その一つの方法として、病院内の表記は専門的な言葉の使用をさけ、患者様に理解していただき易い環境を整えています。口の臭いが気になる方は「いき息さわやか外来」へ、歯の色が気になる方は「白い歯外来」へ、あごが開きにくい、開ける時に痛みがあるなどの方は「あごの関節外来」へというように、ご自分の悩みを解決できる場所がわかります。

また大学病院にありがちな、ひとつの病気を治すのに専門診療室を患者様が回っていくシステムではなく、ひとつの診療室で最初から最後まで診療を行う事を基本としています。専門歯科医師が必要であれば、歯科医師の方からその診療室へ向かいます。

さらに当病院では、隣接する日本歯科大学医科病院と連携し、皆様の健康を維持するための全身的なケアを心がけています。

新潟病院が地域の皆様に信頼される病院となるために、多くのご意見、ご指摘をいただければ幸いです。



医科病院について

医科病院 病院長 柴崎 浩一

皆さん、医科病院を知っていますか？医科病院は、1981年新潟病院（歯科）の隣に医科専門の病院として開院しました。アイヴィ通信の創刊に当たり、簡単に医科病院を紹介します。

診療科は内科、外科、耳鼻咽喉科の3科であり、病床数は50床です。内科・外科の専門は、消化器疾患（食道・胃・腸疾患）、肝臓・胆嚢・膵臓疾患であり、中でも胃癌や大腸癌の早期診断と治療、とくに早期の胃癌や大腸癌に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）・粘膜下層剥離術（ESD）、胃や大腸のポリープ切除術など、内視鏡を用いた最先端の治療を積極的に行っております。早期癌であれば手術をしなくとも完全治癒が期待できる時代です。健康診断を受け、早期癌のうちに内視鏡的に治療して下さい。経鼻内視鏡も導入しています。細く苦痛も少ないことから、内視鏡検査を躊躇していたり、はじめて内視鏡検査を受ける方にお勧めします。また、B型やC型肝炎に対する抗ウイルス治療やインターフェロン治療、肝臓癌に対する最先端の治療も行っています。

外科では腹腔鏡を用いた胆嚢切除や大腸切除を行っています。入院期間が短く、手術痕も小さいことから術後合併症も少なく、早期に社会復帰が可能です。

耳鼻咽喉科ではめまい・難聴の検査や治療、頭頸部や副鼻腔疾患、扁桃摘出術などの他に、「いびき診療センター」と協力し、内科とともに睡眠時無呼吸症候群の経過観察・指導も行っています。

これからも患者さんの悩みを解決できる全人的な医療を実践すべく努力していく所存ですのでお気軽にご相談下さい。



1. 失った歯を取り戻すインプラント治療

●日本歯科大学新潟病院
口腔インプラントセンター長
(口腔外科准教授)
廣安 一彦



◆豊かな食生活を取り戻す

歯を失ったときの手段としては、ブリッジ・入れ歯・インプラントがあります。

インプラント治療のメリットとしては、他の健康な歯を傷つけたり削ったりすることなく、失ったところのかみ合わせを復元できることです。また、失った歯の本数が多いと、入れ歯ではなかなか安定せず、固いものが噛めないといったことがあるのですが、インプラント治療をすると、力をかけても入れ歯の「ずれ」や「すべり」がなくなります。歯を失ったことによる食べ物の制限や、前述のような不快感が解消されるというのが大きなメリットといえます。

◆半永久的な維持率

土台となるあごの骨がしっかりしていることが重要です。あごの骨が薄くなっていると人工歯根を埋め込むことができないので、CTで骨の状態を3Dで見ることが大切です。もし骨が薄くなっていれば、そこに骨を足してから埋め込みの治療をします。

人工歯根を埋め込むと聞くと、あごの骨に悪影響なのではと思う方も多いかもしれませんが、その心配はありません。チタンという一番体にやさしい金属を使用し、生体になじみやすいよう様々な加工がされています。インプラント治療が、本格的に歯科治療として始まったのは1990年代からです。十数年間のデータしかないのですが、それでも5年で98%、10年で93%の確率で維持できています。今後20年のデータも出ると思いますが、かなり高い確率で歯を維持できるということになるでしょう。

一度インプラント治療をすると、リピーターになる方が多いですね。いざやってみると、自分の歯と同じように、何不自由なく生活できるようです。

◆治療の流れ

若い方ですと交通事故などで歯を失ってしまった方、中高齢者では虫歯で歯を失った方や、入れ歯をしていたがどうしても使いづらいという方が多いですね。

治療の流れですが、事前の検査として、レントゲン・模型(歯型をとってかみ合わせを見る)・CT検査を受けていただきます。

作る本数が少なければ、局所麻酔で約20分ほどで土台を入れる手術



●症例① 治療前(1本欠損)

は終了します。本数が多くなると傷口も大きくなるのでそれだけ時間はかかりますが、1・2本であれば、歯を抜くような感覚とっていただいてもいいと思います。埋め込んだ後、しっかり固定するまでは3カ月前後かかりますが、その間は仮歯などを入れますので、今まで通りの生活ができます。その後、土台が定着したら、型をとって歯を作ります。ですから、土台を作るところから実際に歯が入るまでは4ヶ月～6ヶ月くらいです。

痛みや腫れなどの違和感は、個人差はありますが最初の一週間くらいでなくなります。一週間後の抜糸の時には、痛みはほとんどなくなっています。



●症例① 治療後(エックス線写真)



●症例① 治療後(口腔内)



●症例② 治療前(無歯顎)



●症例② 治療後(義歯除去後)



●症例② 治療後(エックス線写真)



●症例② 治療後(義歯装着時)

◆チーム医療でトータルサポート

治療費はすべて保険適応外です。ですから、医療機関によって金額は異なります。当院では、検査からすべて含めて、かぶせる歯冠の種類にもよりますが、約30万円前後です。

インプラント治療が完了した後も、3か月・1年と定期的に観察します。治療した歯茎の状態やかみ合わせのほか、他の残っている歯の健康状態もみていきます。

歯学部なので、手術をする専門の口腔外科の先生と、歯槽膿漏を専門に診している歯周病の先生、かみ合わせを見る補綴(ほてつ)を専門にしている先生など、それぞれの専門の先生がチームを組んで、一人の患者さんの治療をしています。インプラントセンターでは、検査から手術、かぶせるところ、アフターケアまで、すべて同じ場所で受けられます。

最後に...

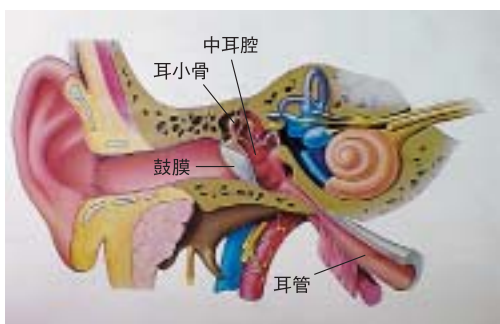
治療の内容を十分理解していただくことが何より大切。失った歯を取り戻したいと思っている方や、インプラント治療に不安を持っている方は、一度当センターにお気軽にご相談下さい。





2. いろんな中耳炎

●日本歯科大学医科病院
耳鼻咽喉科教授
五十嵐文雄



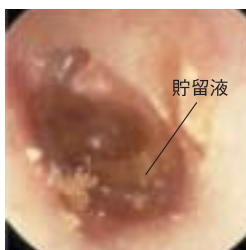
●図1：耳の構造

中耳炎とは中耳腔という耳の内部で起こった炎症です。図1に示しますように、鼓膜(図2)と骨で囲まれた空洞が中耳腔で、中には音を伝える小さな骨、耳小骨(じしょうこつ)があります。この中耳腔は耳管(じかん)により鼻の奥の方とつながり、外界と交通しています。中耳炎の代表的なものには**急性化膿性中耳炎**、**滲出性中耳炎**、**慢性中耳炎**、**真珠腫性中耳炎**があり、これらはすべて関連があります。

【急性化膿性中耳炎】風邪をひいて鼻やノドに細菌が感染して炎症を起こし、これが耳管を通して中耳腔にまで波及したものです。ですから、風邪をひいた後数日してから症状が出ることも多いです。耳の穴から水が入って中耳炎になることは特別な場合以外にはありません。主な症状は耳の痛みと発熱です。中耳腔内が化膿するため耳の痛みが生じ、鼓膜が赤くなります。化膿性炎症が強くなり膿が溜まってくると鼓膜がはれあがり(図3)、ついには鼓膜が破れて「耳だれ」が出てきます。治療は抗生物質などの薬物治療が主体ですが、時には鼓膜を切開して膿を排泄させることもあります。



●図2：左の正常鼓膜



●図4：滲出性中耳炎の左鼓膜。鼓膜は内側に陥凹し、鼓膜の奥に茶褐色の貯留液が透けて見えます。

【滲出性中耳炎】鼓膜が内側に陥凹し、中耳腔内に貯留液が溜まった状態です(図4)。子供に多い病気ですが、時には大人にもみられます。子供の場合は特に急性化膿性中耳炎との関係が深く、急性化膿性中耳炎が完全に治りきらない状態ともいえます。この中耳炎は痛みがほとんどなく、軽い難聴があるだけです。乳幼児ではご家族も気づかないことが多いのです。4、5歳になると、テレビの音を大きくしたり、呼んでも返事をしないことなどで発見されることがしばしばです。



●図3：急性化膿性中耳炎により赤くはれあがった右鼓膜

治療は中耳炎の原因となる鼻やノドの炎症をおさえることと、中耳腔内の貯留液を除去することです。鼓膜を切開したり、鼓膜に小さなチューブを入れて貯留液の排泄を促すこともあります。

【慢性中耳炎】急性化膿性中耳炎を繰り返すうちに鼓膜に穴が開き、耳漏、難聴が生じる病気ですが、薬剤の進歩により最近は数少なくなりました(図5)。



●図5：慢性中耳炎。左鼓膜がほとんどなくなっています。

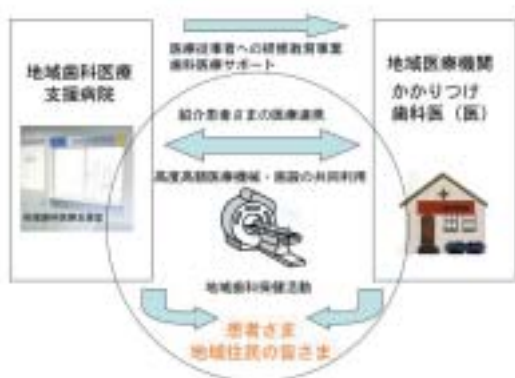
【真珠腫性中耳炎】滲出性中耳炎から移行するといわれておりますが、それほど多くはありません。鼓膜の一部が中耳腔側に深く入り込み、真珠のような塊を作り、次第に周囲を破壊していきますので、手術が必要となる場合が多い中耳炎です(図6)。



●図6：真珠腫性中耳炎。右鼓膜の一部が中耳腔側に深く入り込んでいます(矢印)

地域歯科医療支援病院とは

地域歯科医療支援室 室長(口腔外科准教授) 田中 彰



当院は、地域歯科医療支援病院の指定を受けております。

地域歯科医療支援病院とは、地域の診療所や病院の歯科医師、医師によって、歯や口、あごに関して詳しい検査や特殊な専門的治療、入院、手術が必要と診断され、当院をご紹介された患者さまに、より快適で適切な治療を提供することを目的とした病院です。

地域歯科医療支援室は、地域医療機関との医療連携をスムーズに行うことを目的に開設されました。紹介患者さ

まがスムーズに歯科医療がうけられるように手配するだけでなく、地域医療機関と高度高額医療機器や施設などを共同で利用できる体制をとることや、地域医療機関の医療従事者への教育研修事業や様々な医療サポート、地域住民の皆様に対する歯や口に関する健康に関する様々な歯科保健活動の窓口としての役割も果たしています。

新潟
病院

臨床研修歯科医師の コラム

第1回

臨床研修歯科医師

●河村 華恵 ●佐久間 要 ●桜田 典伸 ●山田 理絵



私たちは、現在臨床研修歯科医師として診療していますが、同じ診療室に白い歯外来の海老原医長が診療されていることから、「歯を白くしたい」、「美しくしたい」という希望をお持ちになって外来を訪れる患者さんをよく目にします。審美歯科は臨床研修歯科医師にとって歯科の最先端分野の一つで、あこがれでもありますので、コラムに取り上げてみました。

最近、テレビや雑誌などで歯のホワイトニングについて取り上げられることが多く、審美歯科に興味を持っている患者さんも増えてきております。

歯を白く、明るくしたいという希望を叶えるためには、まず変色の原因を知っておくことが大切です。変色の原因には歯の表面に色がつく外因性のものと、歯そのものの色が変わる内因性のものがあります。外因性の着色は日頃の磨き残しや喫煙やコーヒー・お茶・カレーなどの色の濃い飲食物により起こります。内因性の着色は歯の外側のエナメル質や歯の内側の象牙質自体が変化して起こります。また、加齢に伴う変色もあり、これは年を取るにつれ、徐々に象牙質の厚みが増し、黄褐色が強くなります。

ホワイトニングを始める前に虫歯や歯周病などがいないか歯の状態をチェックし、トラブルが見つかった場合はその治療を先に行います。これはトラブルがあるとしめる恐れがあるからです。ホワイトニング後自分で毎日きちんと歯を磨いて表面についた汚れを取り除くことが効果の持続に繋がるので、治療と併行して歯磨き指導も行います。ホワイトニングの前には歯石の除去と歯のクリーニング（機械で歯を磨きます）を行います。外因性の着色の場合はクリーニングだけで歯が白くなることもあります。



●ホワイトニング術前

ホワイトニングには歯科医院で行うオフィスブリーチと自宅で行ってもらうホームブリーチがあります。オフィスブリーチは効果がすぐに現れ、数回の処置で歯が白くなりますが、後もどりが起こりやすいこともあります。ホームブリーチは効果を得るまで毎日行い、期間はかかりますが、歯科医院に通う回数は少なくすみ比較的透明感のあるホワイトニングを行えます。患者さんのニーズに合わせてどちらを選択するか、組み合わせで行うかを決めています。



●ホワイトニング術後

当病院では、特殊外来として白い歯外来を設けており、歯のホワイトニングについても行っております。興味を持たれた方は、担当医にご相談ください。

編集
後記

■アイヴィ通信第1号いかがだったでしょうか。このアイヴィ通信は新潟病院地域歯科医療支援室が企画・発行しています。日本歯科大学新潟病院・医科病院は歯科医師育成・歯科医学研究機関の付属病院として、地域の皆様の口腔と全身の健康に寄与すべく日々診療と研究を重ねております。アイヴィ通信は、今その病院内で行われている診療や様々な病気とその治療法に関するトピックスを皆様にご紹介させていただき、病院と皆様の距離を身近に感じていただく目的で発刊の運びとなりました。ご意見、ご希望等ございましたら、「ご意見箱」までお寄せいただけると幸いです。

■ちなみに「アイヴィ通信」の「アイヴィ」は日本語訳：蔦（つた）で、病院建物を暖かく包みこみ、四季折々の様々な風合いを見せてくれている蔦の葉にちなんで命名いたしました。「アイヴィ通信」の紙面は、病院壁面に用いられている信楽焼のレンガと蔦の葉をモチーフにしています。（田）



日本歯科大学新潟病院・医科病院

アイヴィ通信



発行日／平成20年10月1日 発行人／関本恒夫 柴崎浩一
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500 (代) FAX 025-267-1546 (支援室直通)